

# 竜王北中学校 学校関係者評価書（後期）

平成30年2月9日（金）  
竜王北中学校関係者評価委員会作成

## 第2回 学校関係者評価委員会

実施日：平成30年2月2日（金）午後5時～午後6時20分

会場：竜王北中学校校長室

参加者：（学校関係者評価委員）

石合 廣光 吉村 広人 田中 陽子

田中 浩二 赤池 裕樹

（学校側）

今村 淳一 小林 雅人 竹内 太郎

### I 学校側から提案された内容

- ・平成29年度自己評価書（後期）
- ・平成29年度自己評価シート（後期）集計結果

### II 協議された主な内容

- ・平成29年度自己評価書（後期）に関する意見及び感想。
- ・本校の教育活動についての質疑とそれに対する意見および今後の改善策。

## <学校関係者評価書>

### I 全体評価

- ・肯定的な回答（A「とてもそう思う」、B「そう思う」の合計）がほぼ全項目（49項目中45項目）で85%を超えている。
- ・肯定的な回答率が低い（85%以下）あるいは平均値が低い（3.0以下）項目は、「多忙化解消のための取組の成果」「危機管理マニュアルの理解」「個に配慮した授業」「教材教具、備品等を活用した授業」「考え、議論する授業」「地域の人材や地域の教育力を生かす指導」「保護者・地域の願いを聞く等、情報収集の機会の確保」の7項目であった。
- ・以上の点から、この7項目は、現在の竜王北中学校の課題となるものである。提示のあった改善策・手立てをより具体的なものとして実行して欲しい。

### II 意見

#### <教職員の多忙化解消の取組>

- ・外部からの改革だけで多忙化が解消できるかは疑問である。教職員一人一人が自ら考えて、内部改革をしていく必要がある。ただ単に勤務時間を短縮することのみを追求していくと、教育の本質をゆがめることにもなり、本末転倒になりかねない。

- ・多忙化の原因は、「部活」「事務処理」「出張」等による負担である。調査や出張は、増えるばかりで減ることのない現状がある。国や県等に精選してもらえるように要望していく必要がある。
- ・部活指導は中学校教師にとって最も負担の大きい仕事である。それを積極的に取り組んでいる教員がいる一方で、ストレスを抱えながら仕方なくやっている教員がいることも事実である。しかし、部活は生徒とのより良い人間関係を築けたり、いろいろなことを学ばせたりできるとても素晴らしい活動である。勤務時間（8：15～16：45）外に行うことが多い部活動にどのように携わっていくのかが、大きな課題である。
- ・教員が心身共に健康であることが、生徒に対しても良い影響を与え、教育効果を上げることに繋がる。
- ・ストレスや多忙感を感じさせないような取組や職場環境が大切である。例えば忙しくても生徒がそれに応えてくれた時には大きな喜びがあり、疲れを感じることはない。教育は本来とてもやり甲斐のある仕事なので、自負を持ってほしい。
- ・「いらぬ無駄」と「必要な無駄」がある。それを見極めて、仕事内容を精選していく必要がある。

#### <防災訓練及び保護者や地域との連携>

- ・9月の初めに市の防災訓練があるが、中学生の参加が少ない。学園祭前で部活もあるわけだが、地域の防災訓練に参加することはとても意義深いはずだ。「小学生を引っ張ってくれる中学生」の姿を期待したい。
- ・避難の仕方は頭ではなく、実践で覚えるものである。そして、避難訓練の考え方も時代と共に変わってきている。学校で実践的な避難訓練をしていることはとても大事なことであり、これからも続けていってほしい。
- ・実際に災害が起こったときに、家族でどの場所に集まるのかを普段から話をしておく必要がある。果たしてどのくらいの家庭で話をしているのだろうか。

#### <その他>

- ・携帯電話やスマホの普及により人と人とのコミュニケーションが希薄になってきている。親は仕事で忙しく、生徒は部活や塾・習い事等で忙しく、親子の会話も少なくなってきたりしている現状がある。また、睡眠時間が削られて良い睡眠の妨げになっていたり、じっくり考えることが苦手になってしまったりする弊害も出てきている。これだけ普及してくると頭ごなしに否定することはできないが、どのように使っていくのかを大人も一緒に考えていかななくてはならない。
- ・何事にも「信頼関係」が大切である。それを築き上げるためにも、「親と子ども」「先生と生徒」がコミュニケーションをとる機会を増やし、何でも相談できる関係をつくりたい。

記載責任者（竜王北中学校 学校関係者評価委員長） 氏名：石合 廣光 印